

6/15-21#1「祈りと言の務めを堅く持ち続ける」:

I.「祈り...を堅く持ち続ける」(使徒6:4):A祈ることは、私たちが、自分は無であって、何もできないことを認識することを意味します。これは祈りが真に自己を否むことであることを暗示しています。**B**祈りの人は、神と神のみこころを求める人でなければなりません。**C**祈りの真の意義は、私たちの霊の中で神と接触し、神ご自身を吸収することです。**1**祈りとは、人の霊と神聖な霊が接触することであり、その接触の中で、私たちは神を吸い込みます。**2**真実な祈りとは、私たちの霊の中で、霊なる神とミングリングされる祈りです。**a**祈りは、神が私たちの霊とミングリングされて共に祈るものでなければなりません。**b**真の祈り、すなわち、神と人にかかわりを持つ祈りは、神の霊が人の霊とミングリングされ、人の霊が神の霊とミングリングされて持つ祈りです。**ローマ8:26** 同じように、その霊も私たちの弱さを担って助けてくださいます。なぜなら、私たちはどのように祈ったらよいかかわからないのですが、その霊自ら言い難いうめきをもって、私たちのためにとりなしてくださるからです。**27** 心を探る方は、その霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、彼は神にしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。**C**この祈りの中で神と人は共にミングリングされます。そして、神は開始する方、動機づける方です。神は人の中で祈り、人は神の中で祈ります。**ヤコブ5:17** エリヤは私たちと同じ性情を持つ人でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。**3**私たちが真実な祈り、すなわち、神によって開始され、神に触れる祈りを持つとするなら、聖霊の中で祈らなければなりません。聖霊の中で祈るとは、私たちと聖霊が、二つ霊の交わりの中で共に祈ることを意味します。**ユダ20** しかし、愛する者たちよ、あなたがたは最も聖い信仰の上に自らを建て上げ、聖霊の中で祈りなさい。**4**私たちが祈りの中で神と接触し、神を吸い込み、神を吸収し、神で満たされる祈りが、真実な祈りです。このような祈りだけが神にささげられるべきです。**D**聖書には最も高くして霊的な祈りがあります。それは権威の祈りです:**ダニエル9:19** 主よ、聞いてください! 主よ、赦してください! 主よ、聞き入れて事を行なってください! 私の神よ、あなたご自身のために、遅らせないでください。あなたの都とあなたの民は、あなたの御名によって呼ばれているからです。**マタイ26:39** そして彼は少し進んで、ひれ伏して、祈って言われた、「わが父よ、できることなら、この杯を私から過ぎ去らせてください。しかし、私の意のままには

なく、あなたの意のままになさってください」。**1**私たちが祈りの人になりたいなら、権威をもって祈ることを学ばなければなりません。このような祈りは、**マタイ18:18**で主によって描写されています。**2**マタイ18:18には、縛る祈りと呼ばれる祈りと、解く祈りと呼ばれる祈りがあります。縛ることと解くこと、これが権威をもって祈ることです。**3**権威をもって祈ることは、**マルコ11:23~24**の祈りです:**23** まことに、私はあなたがたに言う。だれでもこの山に向かって、「持ち上げられて、海に投げ込まれよ」と言い、心の中で疑わず、自分の言うことは成ると信じるなら、そのとおりになる。**24** こういうわけで、私はあなたがたに言う。あなたがたが祈って求めるものはすべて、受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。**1**信仰とは、私たちが求めたものをすでに受けたと信じることです。**a**主の言葉によれば、私たちはすでに受けたと信じるべきであって、受けるであろうと信じるのではありません。**b**望むとは、将来のことを期待することを意味します。信じるとは、あることがすでになされたと考えることを意味します。**C**信仰とは、神がある事を行なうことができる、また行なうであろうと信じるだけでなく、神がその事をすでに行なったと信じることです。**2**マルコ11:20~24の祈りは、権威の祈りです。**a**権威の祈りは、神に何かを行なっていただくように求めることではありません。むしろ、神の権威を行使し、この権威を適用して、問題や取り除かれるべき事柄を対処することです。**b**神が私たちに与えた委託は、彼がすでに命じたことを命じ、彼がすでに命令を与えたことに命令を与えることです。**c**召会がそのような権威の祈りを持つことができるのは、完全な信仰を持ち、疑わないで、私たちが行なうことが完全に神のみこころにしたがっているのが明確であることによります。**d**権威の祈りは、勝利者と大いに関係があります。すべての勝利者は、「この山」に向かって語ることを学ばなければなりません。**II.「言の務めを堅く持ち続ける」(使徒6:4):**A使徒たちが実行したように、言葉の務めの前にまず祈りがあるべきです。**B**言葉の務めの実例は、**エペソ3:17**前半です。「キリストが...あなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように」:**エペソ3:16** どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してください。すように。**1**キリストは私たちの心の中へと広がるとき、私たちのパーソンとなります。**a**私たちはキリストを、霊の中で命とするだけでなく、心の中でパーソンとする必要があります。**b**キリストが私たちのパーソンとなる唯一の道は、キリストが私たちの心の中

に、ご自身のホームを造ることです。c 私たちがキリストを私たちの心の中でパースンとするなら、私たちの心の中に生きているパースンは自己ではなく、キリストです。2 私たちの心の中にご自身のホームを造りつつあるキリストは、無限の、計り知れないキリストです:エペソ3:17 またあなたがたが...18 力に満たされて、すべての聖徒たちと共に、その広さ、長さ、高さ、深さが何であるかを会得し、19 そして、知識を超越したキリストの愛を知ることができるように。また、あなたがたが満たされて、神の全豊満へと至るよう。a キリストが私たちの心の中にご自身のホームを造るとき、私たちはすべての聖徒たちと共に、その広さ、長さ、高さ、深さを会得します。これは宇宙の次元、計り知れないキリストの次元です。b キリストは計り知れないのですが、私たちの心の中にご自身のホームを造りつつあります。c キリストは宇宙的な立方体であり、からだの中での彼に対する私たちの経験は、「立方体のように」、三次元にならなければなりません。3 キリストが私たちの心の中にご自身のホームを造るとき、私たちは満たされて、神の全豊満へと至ります。a 神の豊満は、極みに至る三一の神の表現であるキリストのからだ、三一の神の団体的な表現の究極的な完成です。b キリストのからだは、無限のキリストの無限の表現です。c キリストに、私たちの心の中にご自身のホームを造っていただくなら、私たちは三一の神で満たされて、彼の満ち満ちた表現となるに至ります。4 真の召会生活は、無限の計り知れないキリストが個人的に、私たちの心の中にご自身のホームを造った結果です。a 召会の内容は、私たちがパースンとするキリスト、私たちの存在の中へと造り込まれているキリストです。b キリストのからだの実際を持つとするなら、キリストに、私たちの心の中にご自身のホームを造っていただくかなければなりません。c 召会の建造に関するマタイ16:18のキリストの言葉が成就されるために、召会はある状態の中へと入らなければなりません。それは、聖徒たちがキリストに、彼らの心の中にご自身のホームを造っていただき、彼らの内なる全存在を所有し、占有し、浸透していただく状態です。d キリストが私たちの内なる存在を占有すればするほど、ますます私たちは、からだの中で他の人と共に建造されることができるようになります。証 聖書の啓示によれば、地方召会の四つの柱は、真理、命、召会、福音です。この四本柱の開始は真理であり、真理を祈りにより受け取る時、それは人の内側で命になります。そして、人が命を受け入れるとキリストの肢体となり、召会が形成されます。

更に召会は拡張と展開のために福音を伝えます。このことを考慮すると、祈りと言の務めを堅く持ち続けることは、基礎であり、また必須だと思います。

私は祈りについて証します。大学1回生で救われた後しばらくして、私は祈ることを学び始めました。聖書の御言葉を使って祈る時、内側に油塗りがあり、祈る言葉が次から次に湧いてきました。祈った後、聖霊と喜びで満たされました。ところが私は再び自己に戻り、「試験を楽にぎりぎり合格できるように」、「準備したところが試験に出るように」などの自己愛からの祈りを習慣的に行っていました。そして、そのような祈りには喜びがありませんでした。私はなぜ喜びが無いのかよく分かりませんでした。しかし、大学院の受験の時、私は勉強が余りかどらないので、焦って次のように祈りました、「主よ、とにかく絶対に大学院に合格させてください。そうでないと、就職活動の時期は既に終わっており、どこも行くところがなくなり、かっこ悪すぎるので」。私がこのように祈った後、主は言われました、「あなたは大学院合格を愛するのか、それとも私を愛するのか?」。私は直ぐに答えて言いました、「そんな堅いことを言わずに、とにかく通してくだされば、その後いくらでもあなたを愛することができますので」、この同じやり取りが3回続いた後、直ちに私は主の臨在を失いました。そして、私は言いました、「私は主を変えることができない。自分が変わり、彼に服さなければならぬ」。そして続けて、「主よ、私はあなたを愛します。たとえ合格しなくても、私はあなたを愛します」。このように祈った後、主の臨在が私に戻り、主が喜んでおられるのを感じました。そして、進学は主の導きであり、必ず主が合格させて下さると感じました。その後、私は平安の中で最後の1ヶ月間、集中して勉強する事ができました。その結果、なんとかぎりぎり合格することができました。ヨハネ4:24は言います、「神は霊であるから、彼を礼拝する者は、霊と真実の中で礼拝しなければならない」。また、2コリント3:15~17は言います、「15 まことに、今日に至るまで、モーセの書が読まれるたびに、おおいが彼らの心にかかっているのです。16 しかし、彼らの心が主に向く時はいつも、そのおおいを取り除かれます。17 そして主はその霊です。そして主の霊のあるところには、自由があります」。私はこの経験を度々思い出して、祈りながら考慮しました。私は主と交わる時、①自己愛から完全に主に向きを変え、②主に開いて、③正直に真実に主と交わり、④御言葉を使って主と交わり、⑤純粋に主を夫として愛し、⑥主をかいらとして、主に服し、⑦先ず、神の御心を求める必要があることが徐々に分かるようになりました。